

(別紙 1)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年8月30日

【評価実施概要】

事業所番号	2770109144		
法人名	有限会社 杜の里		
事業所名	グループホーム 杜の里		
所在地	堺市西区山田三丁目1034番23 (電話) 072-260-0662		
評価機関名	株式会社H. R. コーポレーション		
所在地	兵庫県西宮市甲陽園本庄町6番8-102号		
訪問調査日	平成19年7月24日	評価確定日	平成19年9月17日

【情報提供票より】 (19年 6月 20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 18 年 5 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤 5人, 非常勤 11 人, 常勤換算 12 人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋 造り		
	2 階建ての1・2 階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	14,500~16,000 円
敷 金	有 (円) ㊟		
保証金の有無 (入居一時金含む)	㊟ (100,000円) 無	有りの場合 償却の有無	㊟ / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,480 円		

(4) 利用者の概要 (月 日現在)

利用者人数	11 名	男性 5 名	女性 6 名
要介護 1	2名	要介護 2	3名
要介護 3	3名	要介護 4	3名
要介護 5		要支援 2	
年齢	平均 78.3 歳	最低 68 歳	最高 86 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人ペガサス・馬場記念病院・医療法人同人会・耳原鳳病院・
---------	--------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

18年5月開設、現在1ユニットが満床で、2ユニットの入居者が4名、さらに申し込み希望者が多くあり、2ユニット満床に向けて職員が一丸となって取り組み、活気に満ちている。窓が大きく数多く作られており、館内は採光に恵まれ、清潔で、共用空間に置かれた大きな水槽や手作りの装飾品は季節によって変化をもたせ利用者の楽しみと刺激になっている。アセスメント様式を一新し、生活歴・生活面での個性をさらにきめ細かく把握し、その人らしい生活が継続できるような支援を目指している。

【重点項目への取組状況】

重点項目 ①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:第三者4)
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:第三者4) スタッフ会議において、今回の外部評価の意義について説明し、自己評価の用紙にそれぞれの立場から意見を記入してもらい、それらを集約して完成した。
重点項目 ②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:第三者4, 5, 6) 毎回の運営推進会議には、利用者・家族・自治会など地域住民が参加されている。地域包括センターや行政の職員などには、要請の上可能な限り出席してもらい、出席できない時は会議の報告をしている。会議では、ホームの運営やサービスの状況について、率直な意見を出し合っている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:第三者7, 8) 毎月1回は家族の面会の機会を設けているので、家族が面会に来られた時に意見・不満・要望をうかがい、話しやすい雰囲気作りに配慮している。また、運営会議の後に時間を設け、参加された家族と職員とで話し合い、意見・不満・要望を聴くようにもしている。
重点項目 ④	日常生活における地域との連携(関連項目:第三者3) ホームオープン時に、地域住民に積極的に見学の案内を行い、多数の来訪があった。自治会や老人会への加入は受け入れが難しいとのことで実現できていないが、地域の行事への参加は積極的に行っている。また、地域の幼稚園児やボランティアをホームに招き、地域との交流に取り組んでいる。現在検討している地域活動への参加の実現を期待する。

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	グループホームの基本方針である「家庭的な環境」は表現されているが、地域との関係性が明文化されていない。	○	地域密着型サービスとして目指す「地域住民との交流の下」など地域との関係性を重視する表現が加わることが望ましい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日朝礼で唱和し、又月1回のスタッフ会議など全職員が集まる際に理念を踏まえて話し合いを行っている。又、入職時の面接の際に必ずホームの職員としての心がまえを理念に沿って話している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームオープン時に、地域住民に積極的に見学の案内を行い、多数の来訪があった。自治会や老人会への加入は受け入れが難しいとのことではあるが、地域の行事への参加は積極的に行っている。また、地域の幼稚園児やボランティアをホームに招き、地域との交流に取り組んでいる。現在のところ、地域活動への参加が十分にできていないと認識されている。	○	地域の一員として、地域で必要とされる活動や役割を担っていくために、現在検討している地域活動への参加の実現を期待する。

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを 期待したい項 目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	スタッフ会議において、今回の外部評価の意義について説明し、自己評価の用紙にそれぞれの立場から意見を記入してもらい、それらを集約して完成した。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回の運営推進会議には、利用者・家族・自治会など地域住民が参加されている。地域包括センターや行政の職員などには、要請の上可能な限り出席してもらい、出席できない時は会議の報告をしている。会議では、ホームの運営やサービスの状況について、率直な意見を出し合っている。		
6	9	○市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	2ヶ月に1回開かれるケアマネジャー連絡会において地域包括の担当者と相談・意見交換の機会を持っているが、市町村担当者とは必要時電話で相談する程度にとどまり、協働関係の構築は今後の課題になっている。	○	地域的に離れており、市町村担当者と直接会って意見・情報交換を行う機会が少ないため、今後は連絡を密に取り、積極的な協働関係作りと継続が期待される。

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを 期待したい項 目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>生活・健康状況については、面会の際や、必要時は電話やメールなどで伝えている。預かり金については基本的には行っていないが、希望者には個別対応で行ない家族に報告している。5月から毎月1回「ホーム便り」を発行し、月の行事・イベントの報告・写真などを掲載して郵送している。家族と面会する機会が定期的でない利用者・変化の少ない利用者を含めて、すべての利用者一人ひとりについて満遍なく報告する工夫が十分ではない。</p>	○	<p>すべての利用者について、一人一人の日々の生活の様子や心身の状況などを、定期的なきめ細かく報告することが望ましい。</p>
8	15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>毎月1回は家族の面会の機会を設けているので、家族が面会に来られた時に意見・不満・要望をうかがい、話しやすい雰囲気作りに配慮している。また、運営会議の後に時間を設け、参加された家族と職員とで話し合い、意見・不満・要望を聴くようにもしている。</p>	○	<p>家族は不満や苦情を言いにくいということを理解し、定期的なアンレートで満足度を把握したり、運営会議や家族会の後職員は席をはずして家族会としての意見・苦情を提出してもらうなど、率直な意見が表しやすい工夫が望まれる。</p>
9	18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>利用者の数がまだ少ないこともあり、職員全員で介護ができるように、2ユニットでローテーションを組み、職員全員が利用者や馴染みの関係が築けるように配慮している。職員が離職した場合などは、利用者や家族に説明し、運営推進会議でも報告を行い理解を得るように取り組んでいる。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回のスタッフ会議の中で提案された案件について、次回の会議の中で時間を設け勉強会として検討しているが、年間を通じての研修計画は作成されていない。	○	ホームとして職員育成に向けた年間を通じての研修計画を作成し、働きながら学べる機会を確保し、それぞれの経験や習熟度に応じて段階的に力をつけていけるような体制作りがのぞまれる。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交流会からスタートした西区グループホームの会に、今年3月から月1回出席している。現在11から12のグループホームの施設長が集まり情報交換を行い連携を深めているが、現在はホーム長の参加のみにとどまっている。	○	今後は、西区グループホームの会に職員も参加できるようにし、他施設との交流を図り、ネットワーク作りや勉強会などへの取り組みが期待される。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望の相談を受けてから入居までに、必ずホームに来てもらい、家族と一緒に見学しながらホームの雰囲気や職員の様子などを見られている。必要な場合は、何度か訪問の機会を持ち、徐々に馴染みの関係を作り、無理なく利用が開始できるように支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>○利用者と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>入居者の得意分野を引き出し、力を発揮できる場面作りを行っている。利用者の中で、野菜作りの得意な利用者から職員が、種まきから収穫までアドバイスを受け教えてもらうなど、協働しながら生活を送っている。現在、利用者の生活歴・趣味・得意分野・思いや希望の把握が十分にできていないという認識がある。</p>	○	<p>現在、「入居前相談経過記録」として、センター方式を取り入れたアセスメント用紙を作成し、利用者の生活歴から趣味・思い・希望などを把握できるように取り組み始めており、完成が期待される。</p>
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>本人の希望や生活習慣を大切に、朝食時間を決めないで、一人ひとりの起床時間に合わせ食べられるようにするなど、利用者のペースで生活できるように支援している。自分から伝えられない利用者に対しては、日々の行動や表情などから判断し、ケースカンファレンスやサービス担当者会議で情報交換しながら、思いや意向の把握に努めている。</p>		
2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>○チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>介護計画を作成する時は必ずサービス担当者会議を開催し、ケアマネージャー、看護師、介護主任、家族が参加して、それぞれの立場から意見を出し合い、職員は日常的に把握した利用者の状態・力量・希望をまとめ支援の方法を話し合い情報として提供し、利用者主体の個別計画を作成している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
16	37	<p>○現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>設定した期間による定期的な見直しと、状態の変化や希望の変更による随時の見直しが行われている。状況の変化や利用者の希望の変更については、日常的な職員からの報告により、また、家族の希望の変更については面会時の聴取により情報収集を行い、家族にも出席を要請して、サービス担当者会議を開催している。また、安定した利用者についても、月に1回のカンファレンスで、検討している。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>○事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>利用者や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>24時間医療管理体制をとり、医療活用を強化している。自宅で外泊する際の移送サービスなど、外出の支援を行っている。人工透析やインスリン自己注射管理など医療処置を受けながらの生活を継続する支援を行っている。かかりつけ医への受診の際は、原則は家族の同行であるが、困難な場合は受診の支援をしている。</p>		
4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>入居時に利用者と家族の希望を聞き主治医を決定し、入居前のかかりつけ医への受診の際は、原則は家族の同行であるが、困難な場合は受診の支援をしている。協力医療機関の医師の定期的な往診により、健康管理と疾病の早期発見を図り、夜間や急変時への対応も依頼している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
19	47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>「看取りの指針」を作成し、入居時に家族に説明し、同意を得ている。24時間医療連携体制をとり、近隣の協力医療機関に連携と協力を依頼しているが、重度化や看取りに関する方針や対応についての職員への周知は十分ではない。</p>	○	<p>重度化や看取りについてのマニュアルを作成し、方針や対応についての職員の理解を深め、共通認識を持つために、ミーティングや研修会を計画的に開催することが望まれる。</p>
<p>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p>					
<p>1. その人らしい暮らしの支援</p>					
<p>(1)一人ひとりの尊重</p>					
20	50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>職員の接遇は、礼儀正しく丁寧でやさしく、利用者の尊厳への配慮と温かさが感じられる。個人情報保護やプライバシーへの配慮も実践されているが、マニュアルなどは作成されていない。</p>	○	<p>個人情報保護やプライバシーへの配慮についてのマニュアルを整備し、入職時オリエンテーションや定期的な会議の機会に、マニュアルに基づいた統一された内容の理解と周知徹底が望まれる。</p>
21	52	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>食事をはじめとする生活風景の中で、利用者がゆったりと過ごされている雰囲気が感じられる。ホーム長は、待つことの大切さを職員に指導し、職員もミーティングなどで利用者のペースに合わせた支援について話し合っているが、現在入居者の増加などによる業務の増加により、利用者一人ひとりの生活ペースの尊重が十分にできていないことがある。</p>	○	<p>多忙な業務の中でも、利用者一人ひとりのペースに合わせた支援に向けて、今後とも、職員全員が工夫と努力をの継続を期待する。</p>

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを 期待したい項 目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>業者に献立作成と食材の搬入を委託し、職員が調理する形態をとっているが、誕生会や行事の際は発注を止め、利用者の希望に沿った食事が楽しめるように配慮している。裏庭で収穫した野菜を使った献立を加え、季節感や収穫の楽しみを感じることができる。利用者は自宅で使用していた食器を使い、職員も同じテーブルで同じ食事を談笑しながら楽しむ家庭的な雰囲気が感じられる食事風景である。必要に応じて嚥下状態に合わせた形態で提供され、各利用者が自分のペースでゆっくりと食事を楽しみ、職員は急がせることなく見守りながら、さりげなくサポートしている。配膳・下膳などに参加している利用者はいるが、買い物・調理・後片付けなどには、参加できていない。</p>	○	<p>ADLなどに配慮しながら、利用者の残存能力が活かせるような方法を工夫し、食事作りに参加できる支援の検討が望まれる。</p>
23	57	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>週に3回以上の入浴やシャワー浴・部分浴などで、体調や希望に合わせて、身体の清潔が保てる体制がある。時間帯や順番なども、公平に希望に添えるように配慮している。</p>	○	<p>入浴マニュアルを作成し、安全な入浴方法や羞恥心への配慮などについて、共通の理解が職員全員に周知されることが望ましい。</p>

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを 期待したい項 目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	<p>○役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>入居時のアセスメントにより、各利用者の生活歴や趣味を把握し、入居前からの趣味や楽しみごとが継続できるように支援すると同時に、入居後の新たな楽しみごとにも参加できるようにさまざまな機会を提供している。家事やホーム内の役割についても、無理強いせず、他の利用者との関係が悪化しないように細やかに配慮しながら、場面作りを支援している。</p>		
25	61	<p>○日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>年間行事では、季節の花や自然が楽しめるような外出を計画し、利用者の大きな楽しみになっている。裏庭やベランダを利用し、できるだけ外気に触れる機会が作れるように配慮しているが、十分とはいえない。また、近隣に公園や商店がなく、坂道が多いなど、徒歩・車椅子での外出がしにくい立地条件にあり、日常的な外出は十分に行えていない現状である。</p>	○	<p>ホーム長をはじめ、職員全員が外出支援の重要性を十分に理解し、できるだけ多く機会を作れるように努力している。不利な立地条件にはあるが、短時間でもドライブしたり、裏庭やベランダでの外気浴を日課にするなど、日常的な外出の機会を増やし、利用者の心身の活性化が図れるような工夫が望まれる。</p>

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを 期待したい項 目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	<p>○鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>	<p>交通量の多い道路に面していること、実際に何度もホームの外へ出てしまった利用者があり対応が困難であったことなどから、利用者の安全確保を第一と考え、フロア・玄関ともに施錠しており、家族にも説明し、了承を得ている。ゆったりとした共有空間と長い廊下が閉鎖感を緩和している。</p>	○	<p>諸々の状況から安全確保が困難な場合であっても、職員全員が施錠による弊害を認識し、安全確保しながら日中鍵をかけないですむ工夫を検討し、実行に近づけることが望まれる。</p>
27	71	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>災害時の避難経路を掲示し、連絡網と簡単な対応マニュアルは作成されているが、内容検討の必要性を感じ、検討中である。避難訓練については現在消防署と連携し、実施を計画中である。</p>	○	<p>災害の種類別・発生の時間帯別など、詳細で具体的な災害対応マニュアルを作成し、職員全員への周知徹底が必要であり、緊急避難場所などを家族にも伝達することが望まれる。また、マニュアルに基づいて、実際に利用者を誘導しての、発生時間帯別の実践的な避難訓練の実施が急がれ、定期的に繰り返すことにより、安全に利用者を避難誘導できる体制作りが期待される。さらに、備蓄品についての検討と準備も望まれる。</p>

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを 期待したい項 目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>入居時のアセスメントにより、各利用者の嗜好や嚥下状態、食事・水分制限などを把握し、個別に対応している。業者による献立で、カロリーや栄養バランスを確保し、チェック表により、食事・水分摂取量を概ね把握している。水分制限の必要がある利用者については、摂取量を記録しているが、それ以外の利用者については、水分摂取の有無のみ記録されている。</p>	○	<p>現在チェック表の書式の改定を検討中である。食事摂取については主食・副食別の記録、水分摂取については全員についておよその摂取量の記録ができるようなチェック表が望ましい。</p>
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共用空間は、明るく清潔感が感じられるゆったりとした空間になっており、臭気もない。利用者や職員で作成された装飾品や、行事などの写真も掲示されているが、過度にならず、家庭的な雰囲気は損なわれていない。大きな水槽が設置されており、季節感を感じたり、えさを与えて稚魚の成長を楽しんだり、利用者の生活に大きな役割を果たしている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	83	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入居時に、フローリングか畳・ベッドか布団かの選択ができ、自宅に似た環境が継続できるように配慮されている。また、室内には、使い慣れた家具や装飾品が置かれており、各居室に個性が感じられる。食事の場面でも、自宅で使用されていた食器を使われている利用者が多く見られた。</p>		

※ は、重点項目。